



ARIUS

YDP-S51

取扱説明書

組み立て説明については巻末をご参照ください。

目次

安全上のご注意	3	ソング再生と練習	22
取扱説明書について	7	ピアノ 50 曲 (プリセットソング) を聞く	22
付属品 (お確かめください)	7	パートを指定して片手練習する	23
各部の名称と機能	8	最初の発音からすぐにスタートするかどうかを 決める (クイックプレイ)	23
基本編		演奏を録音する	24
ご使用前の準備	9	演奏を録音する	24
キーカバーと譜面立てについて	9	録音済みのユーザーソングの設定を変える	25
電源を入れる	10	録音した演奏を消去する	25
オートパワーオフ	11	電源を切ったときに記憶される データ	26
ヘッドフォンを使う	11	ユーザーソングデータをコンピューターに 保存する	26
ピアノとして演奏する	12	スタンダード MIDI ファイル (SMF ファイル) を 転送する	26
音量 (ボリューム) 調節	12	初期化 (イニシャライズ) の方法	26
インテリジェント アコースティック コントロール (IAC)	12	困ったときは	27
ペダルを使う	13		
ダンパーレゾナンスを使う	13	付録	
メトロノームを使う	14	組み立て方	28
タッチ感度を設定する	15	仕様	31
お手入れ	15	索引	32
		保証とアフターサービス	35
応用編			
音色を楽しむ	16		
音色を選ぶ	16		
デモ曲を聞く	17		
音に残響を付ける (リバーブ)	18		
キー (調) を変える (トランスポーズ)	19		
音の高さを微調整する (チューニング)	19		
2 つの音色を重ねる (デュアル)	20		
二人で一緒に弾く (デュオ)	21		

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさや切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。



警告

電源 / 電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの(31ページ)を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

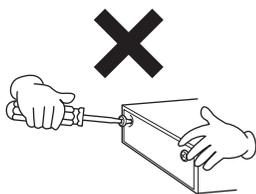
感電やショートのおそれがあります。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にとろうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



禁止

たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。
手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がかがをしたりする原因になります。



必ず実行

この製品を持ち運ぶ場合は、必ず2人以上で行なう。
この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がかがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

指定のスタンドを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。

本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。また、キーカバーで指などははさまないように注意する。

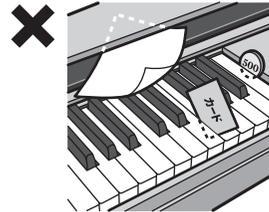
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々がかげがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

[o](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。[o](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

注記（ご使用上の注意）

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■製品の取り扱い / お手入れに関する注意

- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります（5℃～40℃の範囲で動作することを確認しています）。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。
- 極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく（結露する）ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。

■データの保存に関する注意

- 保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、コンピューターなどの外部機器に保存してください。

お知らせ

■データの著作権に関するお願い

- ヤマハ（株）および第三者から販売もしくは提供されている音楽 / サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品は、ヤマハ（株）が著作権を有する著作物やヤマハ（株）が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVE データ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ（株）の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

■製品に搭載されている機能 / データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

■取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- MIDI は社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

ヤマハデジタルピアノをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
この楽器のさまざまな機能を十分に活用するために、この取扱説明書をよくお読みになっ
てからご使用ください。また、読み終わったあとも、不明な点が生じた場合に備えて、
保証書とともに大切に保管していただきますようお願いいたします。

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

冊子マニュアル



取扱説明書（本書）

この楽器の使い方を説明しています。



クイックオペレーションガイド（別紙）

ボタンや鍵盤に割り当てられた機能の操作を詳しく説明しています。

電子マニュアル (PDF)



コンピューターとつなぐ

この楽器の USB TO HOST 端子とコンピューターを接続する方法や、楽器とコンピューター間でのソングデー
タの転送方法などを説明しています。



MIDI リファレンス

USB TO HOST 端子に接続したコンピューターとの MIDI 通信に関する設定の方法や、MIDI データフォーマッ
ト、MIDI インプリメンテーションチャートが掲載されています。



MIDI 入門

MIDI についての基本的な説明をしています。

電子マニュアルは、ヤマハマニュアルライブラリーのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続し
て以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名（「YDP-S51」など）を入力して「検
索」をクリックします。

ヤマハマニュアルライブラリー

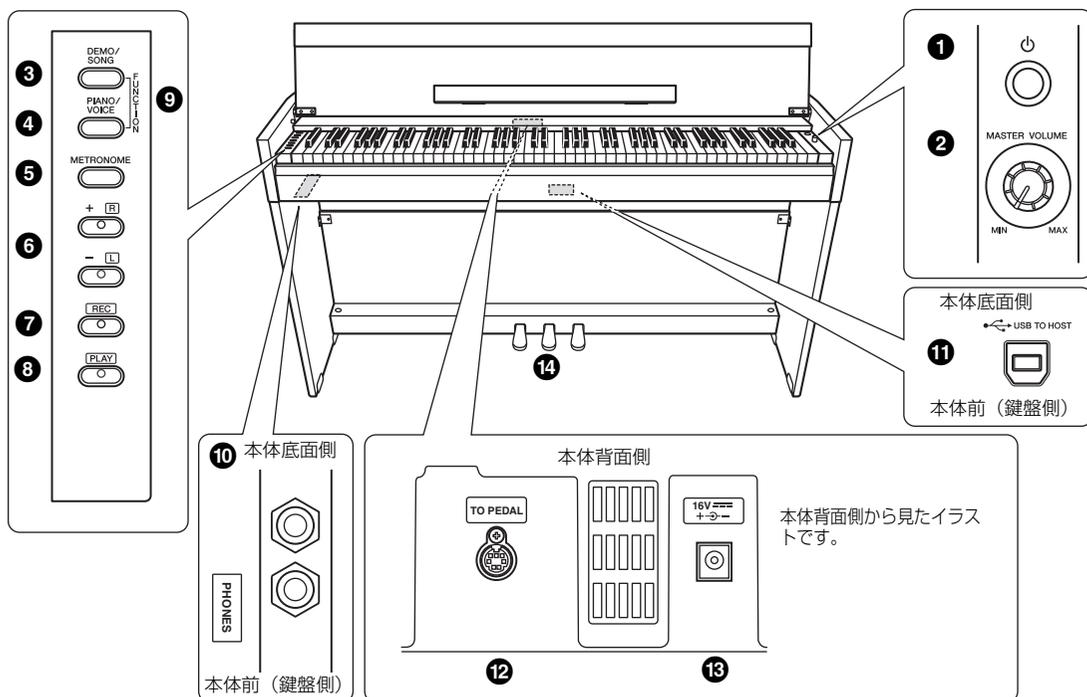
<http://www.yamaha.co.jp/manual/>

付属品(お確かめください)

- 保証書
- 取扱説明書（本書）
- クイックオペレーションガイド（別紙）
- ピアノで弾く名曲 50 選（楽譜集）
- ヤマハオンラインメンバー製品ユーザー登録のご案内^{*1}
- 電源アダプター

*1 ユーザー登録の際に必要なプロダクト ID が記載されています。

各部の名称と機能



- 1** [⏻] (スタンバイ / オン) スイッチ 10 ページ
電源のオン / スタンバイを切り替えます。
 - 2** [MASTER VOLUME] つまみ 12 ページ
楽器全体の音量を調節します。
 - 3** [DEMO/SONG] (デモ / ソング) ボタン 17、22 ページ
音色ごとのデモ曲やプリセットソングを聞くことができます。
 - 4** [PIANO/VOICE] (ピアノ / ボイス) ボタン 16、18、20 ページ
グランドピアノをはじめとした音色を選択したり、2つの音色を重ねて使うために選択したりすることができます。
 - 5** [METRONOME] (メトロノーム) ボタン 14 ページ
メトロノームの機能を利用できます。
 - 6** [+R] [-L] ボタン 16、19、23 ページ
 - ・音色を順次選択します。
 - ・ソング再生中は、ソングを順次選択したり、[PLAY] ボタンを押しながら右手パート、左手パートを個別にオン / オフします。
 - ・メトロノーム再生中は、テンポを増減します。
 - 7** [REC] ボタン 24 ページ
自分の演奏を録音します。
 - 8** [PLAY] ボタン 25 ページ
録音した演奏を再生します。
 - 9** [FUNCTION] 19 ページ
該当する2つのボタンを同時に押したまま、指定した鍵盤を押すことによりMIDI設定やトランスポート設定ができます。
 - 10** [PHONES] 端子 11 ページ
ヘッドフォンを接続します。
 - 11** [USB TO HOST] 端子 *
コンピューターと接続するための端子です。コンピューターとの接続方法については「コンピューターとつなぐ」(7ページ)、MIDIに関する詳細は「MIDIリファレンス」(7ページ)をご覧ください
- 注記**
USBケーブルは、ABタイプのもをご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。
- 12** [TO PEDAL] 端子 29 ページ
ペダルコードを接続します。
 - 13** DC IN 端子 10 ページ
付属の電源アダプターを接続します。
 - 14** ペダル 13 ページ
アコースティックピアノのように、音を響かせたり音質をやわらかくしたいときに使用します。

ご使用前の準備

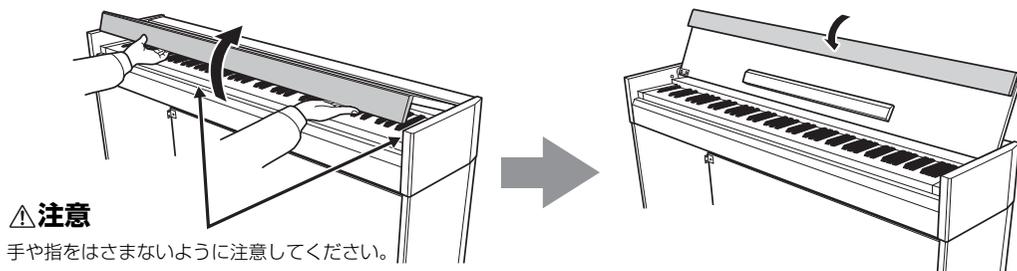
■ キーカバーと譜面立てについて

⚠ 注意

キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。

キーカバーを開ける

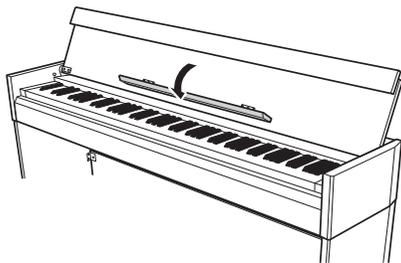
- 1 手前のくぼみに手をかけ両手でカバーをゆっくりと持ち上げます。
- 2 キーカバーの上側の部分を手前に倒します。



⚠ 注意

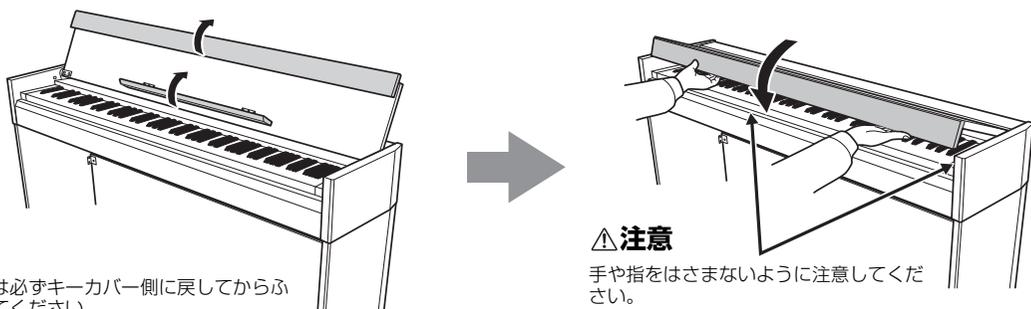
手や指をはさまないように注意してください。

- 3 譜面立てを手前に倒します。



キーカバーを閉じる

- 1 譜面立てをキーカバー側に戻します。
- 2 キーカバー上側の部分を下から持ち上げ手前に立てます。
- 3 キーカバーを持って手前にゆっくりと倒します。



注記

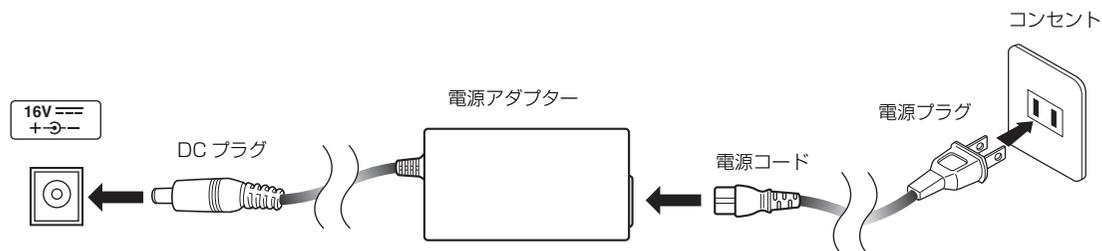
譜面立ては必ずキーカバー側に戻してからふたを閉めてください。
キーカバー上側部分も同様に手前に立ててからキーカバーを閉じてください。

⚠ 注意

手や指をはさまないように注意してください。

電源を入れる

- 1 電源コードの一方の端を図のように電源アダプターと接続します。



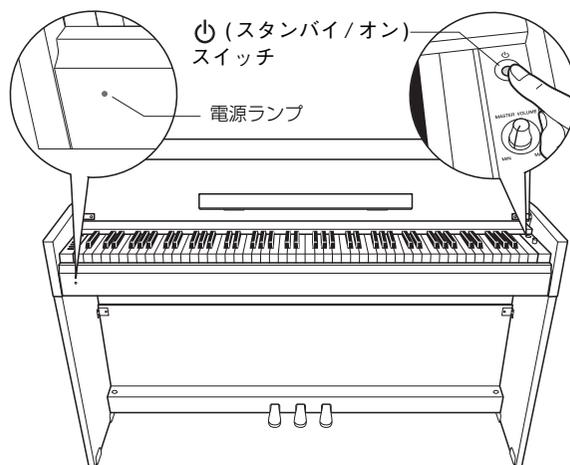
⚠ 警告

電源アダプターは、必ず付属のもの（31 ページ）をお使いください。異なったアダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。

⚠ 注意

この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

- 2 付属の電源アダプターのプラグをこの楽器のリアパネルの DC IN 端子（8 ページ）に接続します。
- 3 もう一方の端（通常の AC プラグ）を電源コンセント（AC100V）に接続します。
- 4 鍵盤右の [⏻] スイッチを押すと電源が入ります。



電源ランプ

電源を切り忘れてキーカバーを閉めてしまった場合、電源ランプの点灯により、電源が入ったままであることを知らせてくれます。

電源を切るときは、もう一度 [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチを押します (1 秒)。電源ランプが消灯します。

⚠ 注意

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

■ オートパワーオフ

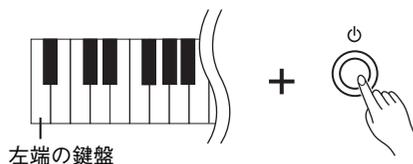
電源の切り忘れを防ぐための機能です。この機能により、この楽器の初期設定では、30分何も操作をしないと自動的に電源が切れます。電源を自動的に切りたくない場合は、以下の手順でオートパワーオフを無効にしてください。

初期設定
有効

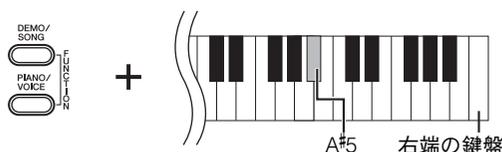
オートパワーオフ機能を無効にする

いったん楽器の電源を切ります。

A-1(左端の鍵盤)を押したまま [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチを押して電源を入ると、[REC] ランプが3回点滅し、オートパワーオフ機能が無効になります。

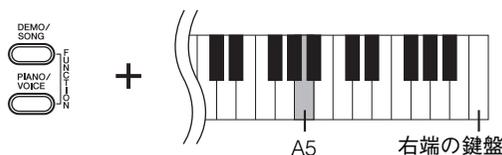


電源を切らずにオートパワーオフ機能を無効にするには、[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] ボタンを同時に押したまま A#5 の鍵盤を押すと、オートパワーオフ機能が無効になります。



再度オートパワーオフ機能を有効にする

[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] ボタンを同時に押したまま、A5 鍵盤を押すと、オートパワーオフ機能が有効になります。

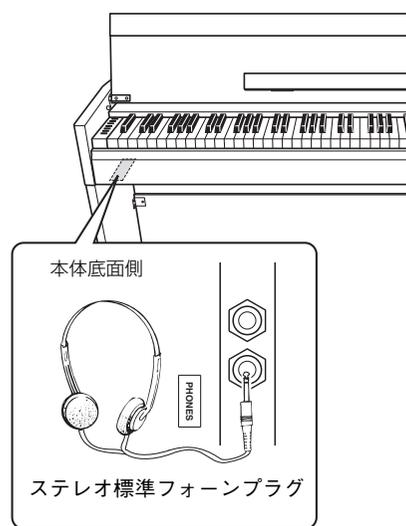


■ ヘッドフォンを使う

この楽器には [PHONES] 端子が2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しめます。どちらかの [PHONES] 端子にヘッドフォンを接続すると、自動的にスピーカーから音が出なくなります。

⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。



ピアノとして演奏する

音量(ボリューム)調節

鍵盤右の [MASTER VOLUME] つまみで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



⚠注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

インテリジェント アコースティック コントロール (IAC)

インテリジェント アコースティック コントロール (IAC) とは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。IAC は、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。

IAC をオンにする：

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま、F[#]0 鍵盤を押します。



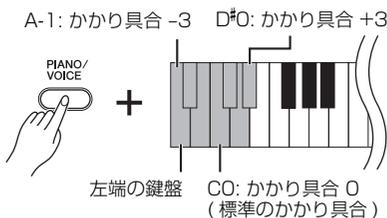
IAC をオフにする：

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま、F0 鍵盤を押します。



IAC のかかり具合の調整

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま、A-1 ~ D[#]0 鍵盤のどれかを押して補正のかかり具合を調整します。



IAC のかかり具合の値が大きいほど、音量が小さいときの低音や高音がよりしっかりと聞こえるように補正されます。

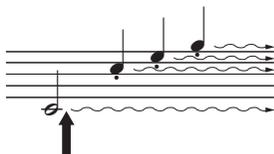
初期設定
オン

設定範囲
-3 (A-1) ~ +3 (D[#]0)
初期設定
0 (C0)

ペダルを使う

右のペダル (ダンパーペダル)

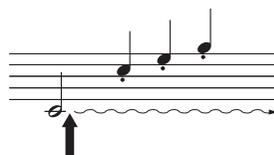
このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても弾いた音は長く響きます。この楽器のダンパーペダルはハーフペダル機能に対応しています。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く。

まん中のペダル (ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く。

左のペダル (ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくします。ペダルを踏む前に押さえていた鍵盤の音には効果はかかりません。

ダンパーレゾナンスを使う

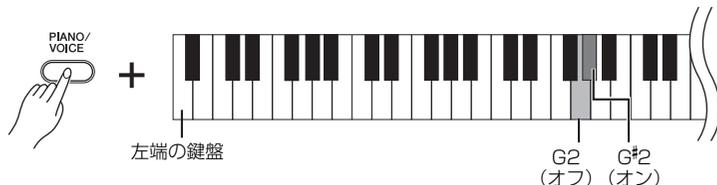
ダンパーレゾナンスがオンの状態でダンパーペダルを踏むと、ダンパーの残響音が付加され、ピアノのダンパーペダルを踏んだときに近い効果が得られます。初期設定ではオンになっています。ダンパーレゾナンスの設定は、楽器全体にかかります。

ダンパーレゾナンスをオンにする：

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま、G[#]2 鍵盤を押します。

ダンパーレゾナンスをオフにする：

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま、G2 鍵盤を押します。



NOTE

ダンパーペダルが効かない場合、ペダルコードのプラグが [TO PEDAL] 端子に差し込まれていないと思われます。確実に差し込んでください。(29 ページの手順 6)

ハーフペダル機能とは

ペダルの踏み加減で音の伸び具合が調節できる機能です。ペダルを踏みこむほど音が長く伸びます。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。

NOTE

オルガンやストリングスの音色ではソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

NOTE

ジャズオルガンの音色を選ぶと、左のペダルは、エフェクトである回転スピーカ効果のスピードを速くしたり、遅くしたりするのを切り替える機能に変わります。

初期設定

オン

メトロノームを使う

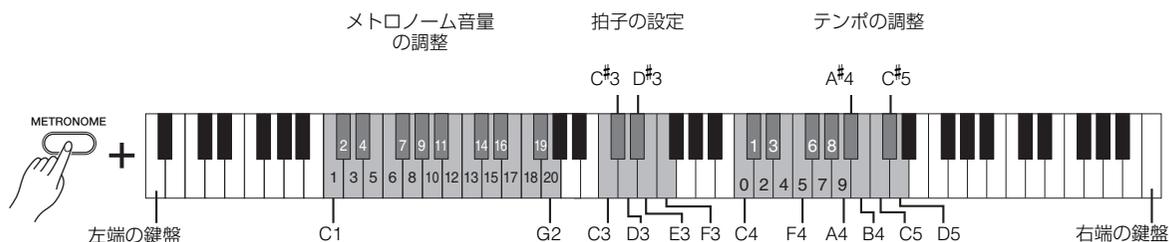
この楽器は、メトロノーム（ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具）を備えています。ご活用ください。

1 [METRONOME] ボタンを押すと、メトロノームが鳴り出します。

2 [METRONOME] ボタンを押すと、メトロノームは止まります。

メトロノームの設定

[METRONOME] ボタンを押したままグレーの鍵盤のどれかを押すことで、メトロノームの設定ができます。設定内容は下の説明をご覧ください。



拍子の設定

[METRONOME] ボタンを押したまま C3～F3 鍵盤のどれかを押します。

たとえば、3/4 (D3) に設定すると「チーンカチカチ」となります。初期設定は拍子なし (C3) です。この場合すべての拍で「カチカチ」と鳴ります。

鍵盤	拍子
C3	拍子なし
C#3	2
D3	3
D#3	4
E3	5
F3	6

テンポの調整

メトロノームを 5～280（1 分間の拍数）の範囲で設定できます。

テンポを 1 ずつ上げる / 下げる

メトロノームが鳴っている状態で、[+R] または [-L] ボタンを押します。あるいは、[METRONOME] ボタンを押したまま C#5(上げる) または B4(下げる) 鍵盤を押します。

テンポを 10 ずつ上げる / 下げる

[METRONOME] ボタンを押したまま D5(上げる) または A#4(下げる) 鍵盤を押します。

テンポを数値入力する

[METRONOME] ボタンを押したまま C4～A4 鍵盤のどれかを押して、3桁の数字を設定します。100の位から順番に設定します。たとえば、テンポを 95 に設定したい場合は、[METRONOME] ボタンを押したまま、C4 (0)、A4 (9)、F4 (5) の順番で鍵盤を押します。

テンポを初期設定 (120) に戻す

[METRONOME] ボタンを押したまま、[+R] と [-L] ボタンを同時に押すか、C5 鍵盤を押します。

音量の調整

[METRONOME] ボタンを押したまま C1～G2 鍵盤のどれかを押して音量を設定します。右側の鍵盤ほど音量を大きく設定できます。

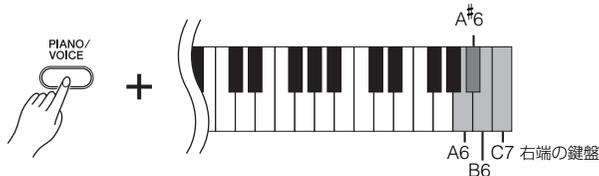
初期設定
0 (C3)

設定範囲
C1 (1)～G2(20)
初期設定
D2 (15)

タッチ感度を設定する

鍵盤を弾く強さを変えたときの、音の強弱の付き方（タッチ感度）を、4種類の中から選びます。（鍵盤の重さ自体は変わりません。）

[PIANO/VOICE] ボタンを押しながら A6 ~ C7 の鍵盤を押してタッチ感度を設定します。



NOTE

オルガンなど一部の音色ではタッチによる音の強弱が付きません。

初期設定

B6(ミディアム)

鍵盤	タッチ感度	説明
A6	フィックス	タッチの強弱にかかわらず一定の音量が出ます。
A#6	ソフト	軽いタッチで大きい音を出ます。比較的音のつぶがそりやすいタッチです。
B6	ミディアム	標準的なタッチです。
C7	ハード	強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアニッシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。

お手入れ

デジタルピアノをいつまでもきれいに保つため、下記のお手入れを定期的に行なうことをおすすめします。

本体やイスのお手入れ

- 乾いたガーゼのような柔らかい布や、水を固く絞った柔らかい布で拭いてください。鍵盤の頑固な汚れには「エレクトーン・クラビノーバ用鍵盤クリーナー」をお使いください。

注記

ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。変色/変質の原因になります。

強く拭くと、ほこりの粒子で本体の表面に傷がつく場合があります。

- 本体のネジは、定期的に締め直してください。

ペダルのお手入れ

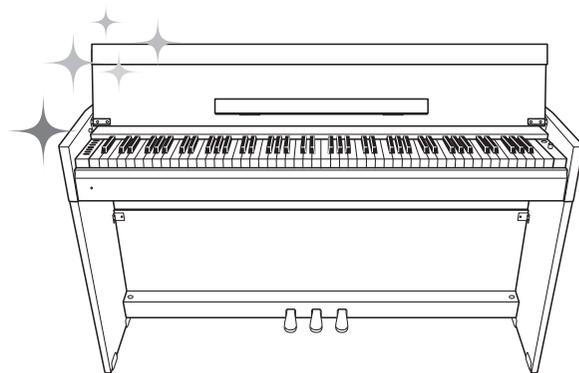
ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様、経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などで買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

調律

調律の必要はありません。電源を入れるといつでも正しいピッチ（音の高さ）でお使いいただけます。

運搬方法

通常の荷物と一緒に運びいただけます。組み立てた状態でも、組み立て前の部品に分解した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。組み立てた状態でお運びいただいた場合は、設置の際、各部のネジのゆるみを確認し、ゆるんでいる場合は締め直してください。



音色を楽しむ

■ 音色を選ぶ

グランドピアノ 1 を選ぶには

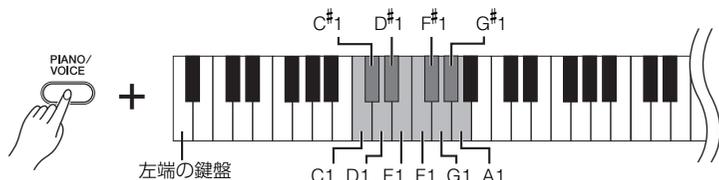
[PIANO/VOICE] ボタンを 1 回押します。

他の音色を選ぶには

[PIANO/VOICE] ボタンを押したあと、[+R] または [-L] ボタンを押して、音色を順次切り替えます。

特定の音色を直接選ぶには

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま C1 ~ A1 鍵盤のどれかを押します。各鍵盤に割り当てられた音色は以下のリストをご参照ください。



NOTE

音色の特徴をつかむには、音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(17 ページ)

NOTE

ボイス=音色(楽器音)

音色リスト

鍵盤	音色名	音色紹介
C1	グランドピアノ 1	フルコンサートグランドピアノからサンプリングされたこの音色は、ダイナミックサンプリングにより、弱タッチから強タッチまでのなめらかな音色変化が表現できます。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
C#1	グランドピアノ 2	温かみのあるソフトなピアノの音です。バラードの演奏に最適です。
D1	グランドピアノ 3	明るい響きを持った広がりあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
D#1	エレクトリックピアノ 1	F M シンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
E1	エレクトリックピアノ 2	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
F1	ハープシコード	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによって音量は変わらず、鍵盤を離れたときには独特の発音があります。
F#1	ビブラフォン	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。強く弾くほど金属的な音になります。
G1	パイプオルガン	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
G#1	ジャズオルガン	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽で良く用いられます。左ペダルの操作で、エフェクトである回転スピーカー効果のスピードを速くしたり遅くしたりすることができます。
A1	ストリングス	ステレオサンプリングでリアルな響きがする大編成弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルでも楽しめます。

1 デモ曲を聞く

この楽器には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。

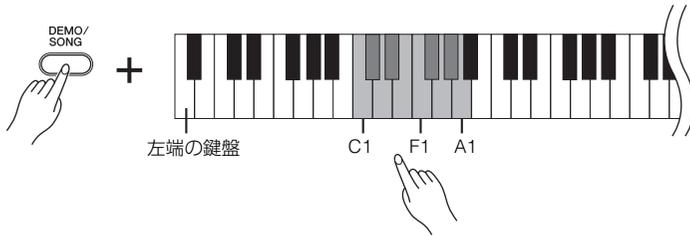
1 [DEMO/SONG] ボタンを押す

[PLAY] ボタンのランプが点滅し、今選ばれている音色のデモ曲がスタートします。デモ曲はストップするまで、選択した音色のデモ曲からデモ曲リストの順に連続して再生されます。

再生中の曲変更

[+R] または [-L] ボタンを押すと、他のデモ曲へ順次切り替わります。

特定のデモ曲を選択するには [DEMO/SONG] ボタンを押したまま C1 ~ A1 鍵盤のどれかを押します。



NOTE

テンポの調節方法は、14 ページをご覧ください。

2 [DEMO/SONG] または [PLAY] ボタンを押して、再生をストップする

[PLAY] ボタンのランプが消灯します。

デモ曲リスト

鍵盤	音色名	曲名	作曲者
C1	グランドピアノ 1	マズルカ 第 5 番 op.7-1	F. F. ショパン
C#1	グランドピアノ 2	子供の情景 「見知らぬ国と人びとから」 op.15-1	R. シューマン
D1	グランドピアノ 3	オリジナル	オリジナル
D#1	エレクトリックピアノ 1	オリジナル	オリジナル
E1	エレクトリックピアノ 2	オリジナル	オリジナル
F1	ハーブシコード	チェンバロ協奏曲 第 7 番 BWV.1058	J. S. バッハ
F#1	ビブラフォン	オリジナル	オリジナル
G1	パイプオルガン	オルガン小曲集 「神のひとり子なる主キリスト」 BWV.601	J. S. バッハ
G#1	ジャズオルガン	オリジナル	オリジナル
A1	ストリングス	オリジナル	オリジナル

「オリジナル」は、ヤマハのオリジナル曲です。(©2012 Yamaha Corporation)

「オリジナル」以外のデモ曲は、原曲から編集 / 抜粋されています。

■ 音に残響を付ける(リバーブ)

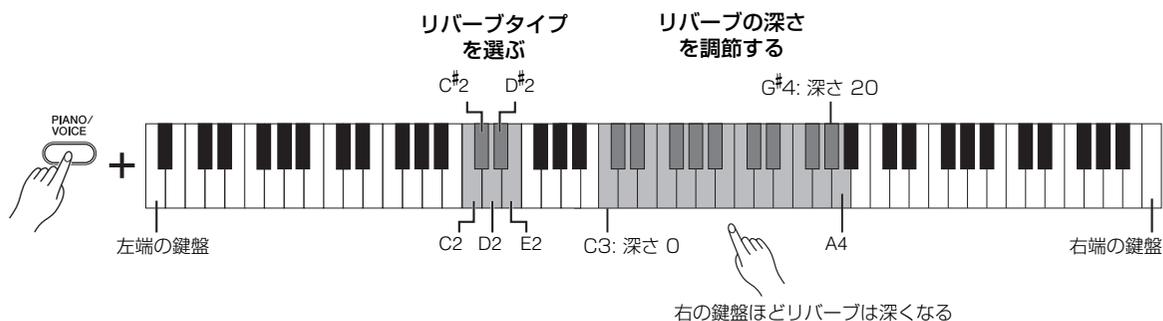
この楽器にはいくつかのリバーブタイプが用意されており、コンサートホールやライブハウスで演奏しているような残響効果をかけたり、その深さ（かかり具合）を変えることができます。リバーブタイプとその深さは、音色やソングを選択するだけで最適なものが自動で呼び出されます。したがって、通常は設定の必要がありませんが自由に変更することができます。

リバーブタイプの設定

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま C2～E2 鍵盤のどれかを押します。

NOTE

デュアル(20ページ)では、第1音色のリバーブタイプが自動で呼び出されます。第1音色のリバーブタイプがオフの場合は、第2音色のリバーブタイプが自動で呼び出されます。



リバーブタイプリスト

鍵盤	リバーブの種類	説明
C2	ルーム	部屋の中にいるような響きになります。
C#2	ホール1	小さいコンサートホールにいるような響きになります。
D2	ホール2	大きいコンサートホールにいるような響きになります。
D#2	ステージ	ステージにいるような響きになります。
E2	オフ	リバーブはかかりません。

深さ（かかり具合）の調節

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま C3～G#4 鍵盤のどれかを押します。

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま A4 鍵盤を押すと、その音色に最適なリバーブの深さになります。

設定範囲

深さ:0(効果なし)～20(深さ最大)

【キー(調)を変える(トランスポーズ)】

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さに半音単位でキー(調)を合わせることができます。この機能をトランスポーズといいます。

たとえばトランスポーズを「+5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。

キーを下げる

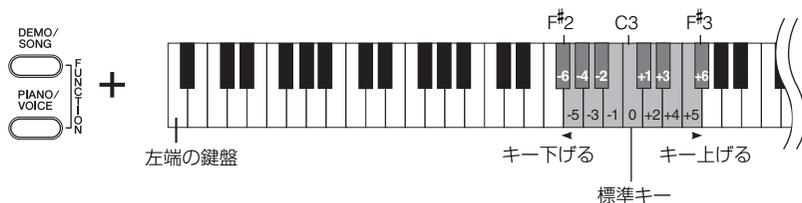
[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] ボタンを同時に押したまま F[#]2(-6) ~ B2(-1) 鍵盤のどれかを押します。

キーを上げる

[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] ボタンを同時に押したまま C[#]3(+1) ~ F[#]3(+6) 鍵盤のどれかを押します。

キーを標準に戻す

[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] ボタンを同時に押したまま C3 鍵盤を押します。

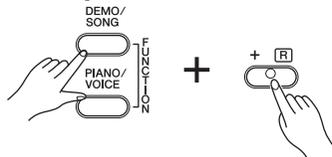


【音の高さを微調整する(チューニング)】

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

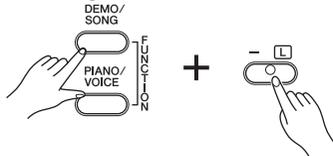
音の高さを上げる(約0.2Hz単位)

[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] ボタンを同時に押したまま [+R] ボタンを押します。



音の高さを下げる(約0.2Hz単位)

[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] ボタンを同時に押したまま [-L] ボタンを押します。



音の高さを442.0Hzに設定する

[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] ボタンを同時に押したまま、A0 鍵盤を押します。



Hz(ヘルツ)とは

音の高さを示す単位です。音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。

設定範囲

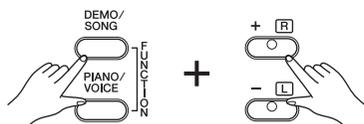
414.8 ~ 466.8Hz

初期設定

440.0Hz

音の高さを初期設定値 (440.0Hz) に戻す

[DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] ボタンを同時に押したまま、[+R] と [-L] ボタンを同時に押します。

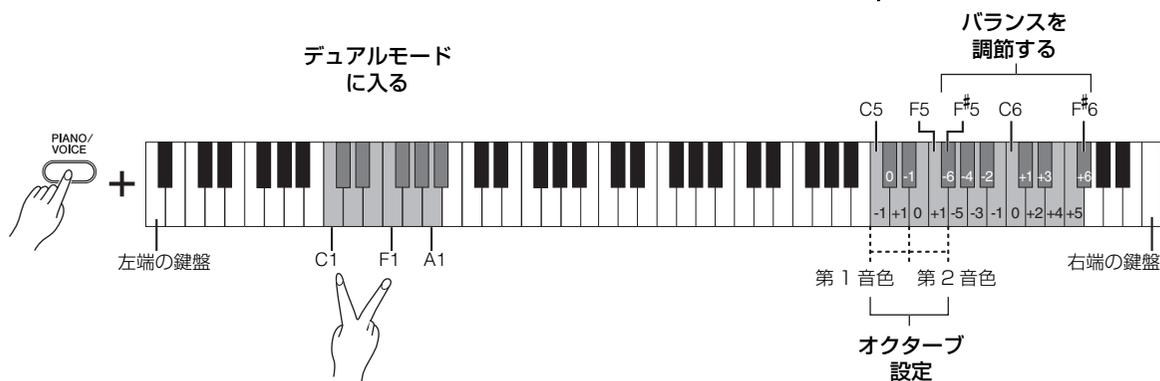


2つの音色を重ねる(デュアル)

2種類の音色を重ねて鳴らすことができます。重ねて鳴らすことにより、厚みのある音を作り出せます。

1 デュアルモードに入る

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま、C1 ~ A1 鍵盤のうち2つの鍵盤を同時に（または、ひとつの鍵盤を押したままもう一方の鍵盤を）押して、重ねたい2つの音色を選びます。各鍵盤に割り当てられた音色は、「音色を選ぶ」(16ページ)をご参照ください。



上記の設定で選んだ2つの音色のうち、左側の鍵盤に割り当てられた音色を第1音色、同様に右側の鍵盤に割り当てられた音色が第2音色になります。第1音色と第2音色に同じ音色を割り当ててはできません。

各音色のオクターブを上げる / 下げる

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま C5 ~ F5 鍵盤のどれかを押します。

2音色の音量バランスをとる

[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま F#5 ~ F#6 鍵盤のどれかを押します。

設定値が0のとき、両音色は同じ音量になります。設定値が+6に近づくほど第1音色の音量が大きくなり、-6に近づくほど第2音色が大きくなります。

NOTE

デュアルモードとデュオモード(21ページ)は同時には入れません。

2 デュアルモードを抜ける

[PIANO/VOICE] ボタンを押すとデュアルモードを抜け、通常の演奏状態にもどります。

■ 二人で一緒に弾く (デュオ)

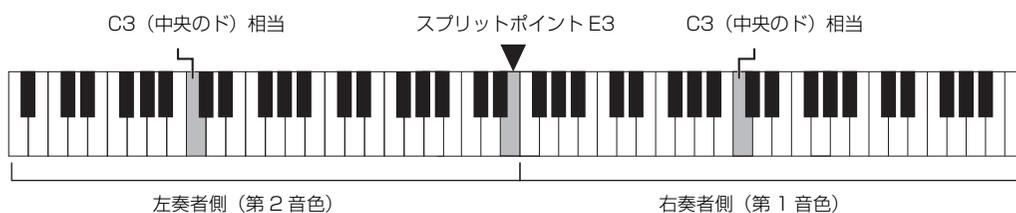
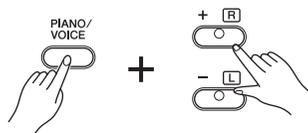
鍵盤を左右に分けて、同時に二人が同じ音域で演奏できます。1 台の楽器で二人同時に演奏したり、二人並んで座り、一人がお手本を弾き、もう一人がそれを見ながら練習する、といった使い方ができます。

1 [PIANO/VOICE] ボタンを押したまま [+R] と [-L] ボタンを同時に押し

ます。E3 が鍵盤の境目 (スプリットポイント) となり、左奏者側と右奏者側に分かれます。

NOTE

右奏者側 (第 1 音色) と左奏者側 (第 2 音色) で異なる音色は設定できません。



2 左側鍵域と右側鍵域に分かれて、2 人で演奏しましょう。

各音色のオクターブを上げる / 下げる

デュアルと同じです。(→ 20 ページ)

2 音色の音量バランスをとる

デュアルと同じです。(→ 20 ページ)

デュオ機能でのペダル効果

- ・ダンパーペダル：右側鍵域のダンパー効果
- ・ソステヌートペダル：左右両方のダンパー効果
- ・ソフトペダル：左側鍵域のダンパー効果

3 デュオを解除するには、[PIANO/VOICE] ボタンを押したまま [+R] と [-L] ボタンを同時に押し

ます。

NOTE

デュオのスプリットポイントは E3 から変更できません。

NOTE

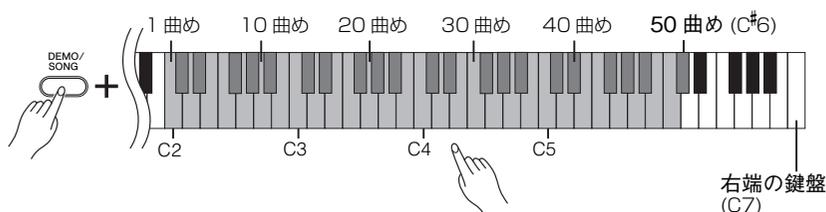
デュアルがオンの状態で、デュオに入るとデュアルは解除されません。音色は第 1 音色になります。

ソング再生と練習

■ ピアノ 50 曲(プリセットソング)を聞く

この楽器には、音色のデモ曲の他にピアノ 50 曲の演奏データが入っています。

- 1 付属の「ピアノで弾く名曲 50 選」から、聞きたい曲の番号を調べる
- 2 [DEMO/SONG] ボタンを押したまま C2 ~ C[#]6 鍵盤のどれかを押して、ピアノ曲の再生をスタートする
C2 ~ C[#]6 鍵盤 (以下参照) には 50 曲が割り当てられています。



[PLAY][+R][-L] ボタンのランプが点灯し、再生がスタートします。
選択したピアノ曲が再生されたあと、次のピアノ曲へと順に連続して再生されます。
最後のピアノ曲まで再生すると最初のピアノ曲に戻ります。

再生中に曲を切り替える：
[+R] または [-L] ボタンを押します。

再生中にテンポを変更する：
[METRONOME] ボタンでメトロノームを鳴らし、[+R] または [-L] ボタンを押すことで、1 ずつテンポ値を増減します。そのほかの方法は、メトロノームの場合 (14 ページ) と同じです。

練習したいテンポで曲の最初から再生する：
曲の再生中にテンポを変更 (上記) したあとに [+R] と [-L] ボタンを同時に押すと、そのままのテンポで曲の先頭から再生します。

- 3 [DEMO/SONG] または [PLAY] ボタンを押して、再生をストップする
[PLAY][+R][-L] のボタンのランプが消灯します。

ソングとは
この楽器では、演奏データを総称して「ソング」と呼んでいます。デモ曲やピアノ 50 曲も演奏データです。

NOTE
ピアノ 50 曲 (プリセットソング) の再生に合わせて、鍵盤を弾くことができます。その際、音色を変えることもできます。

NOTE
ピアノ 50 曲 (プリセットソング)、音色のデモ曲、コンピューターから読み込んだソング (最大 10 曲) は、各カテゴリ内で連続再生します。

NOTE
USB TO HOST 端子に接続したコンピューターから SMF ファイルを転送することで、ソングを追加できます。詳細は「コンピューターとつなぐ」(7 ページ) をご覧ください。

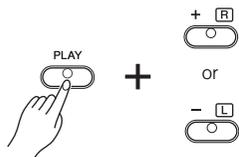
パートを指定して片手練習する

音色デモソング (17 ページ) 以外のソングは、パートごとに再生のオン / オフを設定できます。[+R] ボタンをオフにすれば右手の練習が、[-L] ボタンをオフにすれば左手の練習ができます。

1 プリセットソング (22 ページ) または ユーザーソング (24 ページ) を再生する

2 [PLAY] ボタンを押したまま、[+R] または [-L] ボタンを押してオフにする

[PLAY] ボタンを押したまま、同じボタンを押すごとに再生のオン / オフが切り替わります。



NOTE

他の曲に切り替わると、両方のパートともリセットされます。

3 オフにしたパートを練習しましょう

テンポを調節するには

必要に応じてテンポ調節ができます。詳細は 14 ページをご覧ください。

4 [PLAY] ボタンを押して、再生をストップする

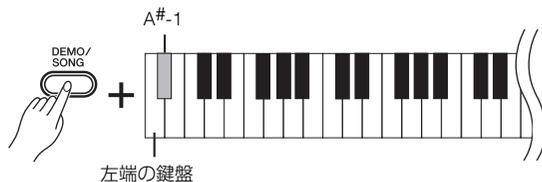
最初の発音からすぐにスタートするかどうかを決める (クイックプレイ)

最初の音の前に空白がある曲 (弱起の曲など) を再生する場合に、実際に音が鳴るところから再生するか、休符や空白を含めて曲のデータどおりに再生するかを選びます。

初期設定
オン

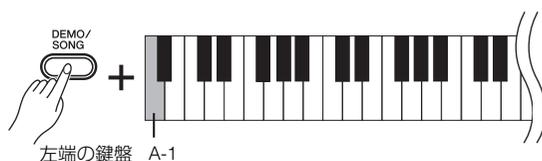
クイックプレイをオンにする

[DEMO/SONG] ボタンを押したまま A[#]-1 鍵盤を押すと、最初の発音、もしくはダンパーペダルの操作情報のところから再生します。



クイックプレイをオフにする

[DEMO/SONG] ボタンを押したまま A-1 鍵盤を押すと、休符や空白を含めて曲のデータどおりに再生します。



演奏を録音する

この楽器では、録音機能を使って自分の演奏を1曲、ユーザーソングとして録音できます。演奏は、右手パートと左手パートの2つを、個別に録音できます。

演奏を録音する

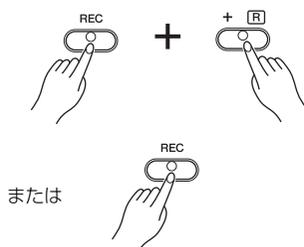
1 音色を選んだり、拍子などを設定する

音色の選択方法については、16ページをご覧ください。必要に応じてそのほかの設定（リバーブなど）も選んでください。

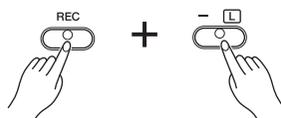
2 [REC] ボタンを押したまま、録音したいパートのボタン [+R] または [-L] ボタンを押して録音モードに入る

パートを気にせず録音したい場合は、[REC] ボタンを押すだけで録音ができます。この場合、自動的に右手パート（[+R]）が選択されます。

右手パート（[+R]）に録音する場合



左手パート（[-L]）に録音する場合



[REC] ボタンと指定したパートのランプが、現在のテンポに合わせて点滅します。

録音を中止する場合

もう一度 [REC] ボタンを押します。

もう一方のパートに既にデータがある場合

録音と同時に、このパートの再生が始まります。

3 鍵盤を弾く、または [PLAY] ボタンを押して、録音をスタートする

録音中は、[REC] ボタンのランプが点灯し、録音しているパートのランプが現在のテンポに合わせて点滅します。

4 [REC] または [PLAY] ボタンを押して、録音をストップする

[REC][PLAY][+R][-L] のボタンのランプが点滅し、保存中であることを示します。保存が終わると、録音モードは自動的に解除されます。

5 もう一方のパートに録音したい場合は、手順 1 ~ 4 を繰り返します。

演奏記憶容量

この楽器に記憶できる容量は、約100KB（およそ11,000音符）です。

NOTE

メトロノームを鳴らしながら録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

注記

すでに録音されているパートのランプは点灯します。このパートに録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

注記

楽器が内部のメモリーにデータを書き込んでいるとき（すべてのボタンのランプが点滅中）は電源を切らないでください。録音中のデータだけでなく、すべての記憶内容が失われる原因になります。

6 [PLAY] ボタンを押して、録音したソングを聞く

もう一度 [PLAY] ボタンを押すと再生は止まります。



NOTE

録音したユーザーソングはスタンダード MIDI ファイル (SMF ファイル) として、コンピューターに転送 / 保存できます。(7 ページ)

録音済みのユーザーソングの設定を変える

下記項目については、録音終了後に変更することができます。

- ・パートごとの設定：
第1音色、第2音色、リバーブ深さ
- ・ソング全体の設定：テンポ、リバーブタイプ

1 上記項目につき、必要な設定を行なう

2 [REC] ボタンを押したまま設定を変更したいパートのボタンを押して、録音モードに入る

この状態で [PLAY] ボタンまたは鍵盤を押さないでください。録音済みデータが消去されてしまいます。

3 [REC] と [PLAY] ボタンを押して録音モードを抜ける

録音した演奏を消去する

ユーザーソング全体の消去

1 [REC] ボタンを押しながら [DEMO/SONG] ボタンを押す

[+R] と [-L] ボタンのランプが点滅します。

消去をキャンセルする場合は、[-L] ボタンを押します。

2 [+R] ボタンを押し、データを消去する

[REC]、[PLAY]、[+R]、[-L] ボタンのランプが点滅します。

データの消去が終わると、すべてのボタンのランプが消灯します。

特定パートの消去

1 [REC] ボタンを押しながら [+R]、[-L] ボタンのいずれかを押して、録音モードに入る

[REC] と選択されたパート ([+R] または [-L]) のランプが点滅します。

2 [PLAY] ボタンを押して録音を始める (鍵盤は弾かない)

選択されたパート ([+R] または [-L]) のランプが点滅します。

3 [REC] または [PLAY] ボタンを押して録音をストップする

選択されたパートの全データが消去され、ランプが消灯します。

電源を切ったときに記憶されるデータ

下記の項目は、電源を切ってもその設定が記憶されます。

- メトロノームの音量
- メトロノームの拍子
- タッチ感度
- チューニング
- インテリジェント アコースティック コントロール (IAC) のかかり具合
- インテリジェント アコースティック コントロール (IAC) のオン / オフ
- オートパワーオフ機能の有効 / 無効
- 自分で録音したソング (ユーザーソング) データ
- コンピューターから読み込んだソングデータ (SMF ファイル)

■ ユーザーソングデータをコンピューターに保存する

ユーザーソングデータは、SMF ファイルとして、コンピューターへ転送できます。ユーザーソングデータをコンピューターへ転送する方法については、電子マニュアル (PDF) 「コンピューターとつなぐ」(7 ページ) をご覧ください。

注記

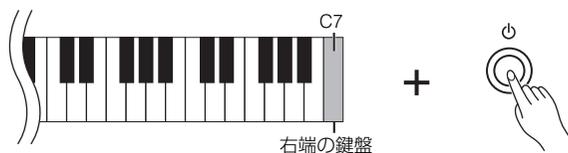
保存したユーザーソングデータは、故障や誤った操作によって失われるかもしれません。大切なデータは、コンピューターなどの外部機器へ保存してください。ユーザーソングデータをコンピューターへ転送する方法については、「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

■ スタンダード MIDI ファイル (SMF ファイル) を転送する

ミュージックソフトダウンローダー (無償) を使って、コンピューターと楽器本体のユーザーソングのメモリーエリアとの間で、SMF ファイルを 10 個までやりとりできます。詳細は、電子マニュアル (PDF) 「コンピューターとつなぐ」(7 ページ) をご覧ください。

初期化(イニシャライズ)の方法

右端の鍵盤 (C7) を押しながら電源を入れることにより、ソング以外のデータが初期化され、工場出荷時の状態になります。



注記

初期化実行中 ([REC] と [PLAY] ボタンのランプ点滅中) は電源を切らないでください。

NOTE

この楽器が、何らかの原因で操作不能になったり、誤動作した場合は、一旦電源を切り、初期化を行ってください。

困ったときは

現象	考えられる原因と解決法
電源が勝手に切れる	故障ではありません。オートパワーオフ機能(11 ページ)が働いたためです。
本体の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません。電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(10 ページ)。
電源スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。故障ではありません。
本体から雑音が出る。	本体の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。本体の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	音量(マスターボリューム)が下がっています(MIN 側になっています)。 [MASTER VOLUME]つまみを上げてください(12 ページ)。
	ヘッドフォンを接続しています。ヘッドフォンのプラグを抜いてください(11 ページ)。
	ローカルコントロールがオフになっています。ローカルコントロールをオンにしてください。詳細は「MIDI リファレンス」(7 ページ)をご覧ください。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[TO PEDAL]端子にしっかりと差し込まれていません。本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[TO PEDAL]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかりと差し込んでください(29 ページ)。
ダンパーペダルが効かない。	ペダルを踏んだまま電源を入れたためです。故障ではありません。ペダルから足を離し、再度踏み直すことで正常になります。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	YDP-S51の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。異常ではありません。
楽器の起動時、ソングの選曲時、録音終了時などに[+R]と[-L]ランプが点滅する。	故障ではありません。楽器の内部処理に時間がかかっている場合に、[+R]と[-L]ランプが点滅することがあります。点滅中、楽器の操作はできないのでご注意ください。

組み立て方

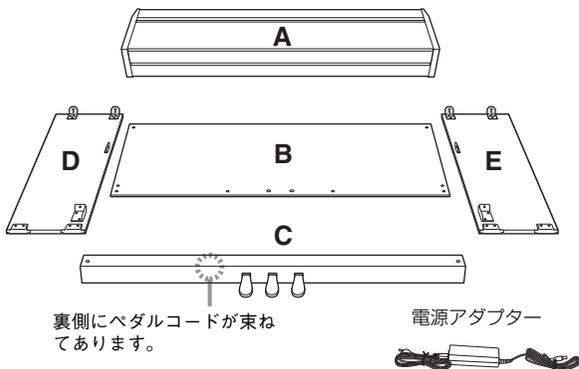
⚠注意

- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ・ 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- ・ 付属のネジ以外のネジ、または指定されたサイズ以外のネジは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- ・ 分解するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

ネジのサイズに合ったプラス (+) のドライバーを用意してください。



すべての部品を取り出し、部品がすべてそろっているかを確認してください。



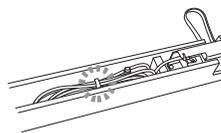
- * 転倒防止用金具2個は同じものです。(左右の区別はありません)
- * 転倒防止用金具は地震対策用ではありません。

部品

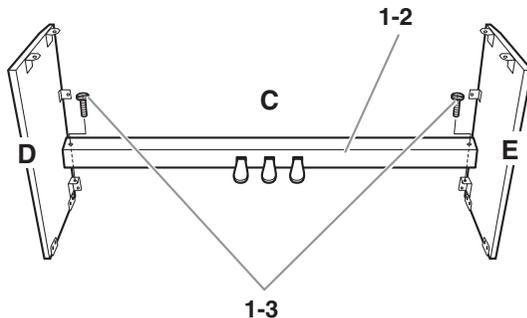
- | | |
|----------------------|-------------------------|
| ① 大きいネジ (6×25mm) × 4 | ⑤ 先のとがったネジ (4×20mm) × 2 |
| ② 大きいネジ (6×20mm) × 2 | ⑥ キャップ × 2 |
| ③ 小さいネジ (6×16mm) × 4 | ⑦ コードホルダー × 2 |
| ④ 細いネジ (4×12mm) × 2 | ⑧ 転倒防止用金具 × 2 |

1 DとEにCを仮留めする。

- 1-1 ペダルコードをほどく。
外したビニールひもは、手順6で使用する。

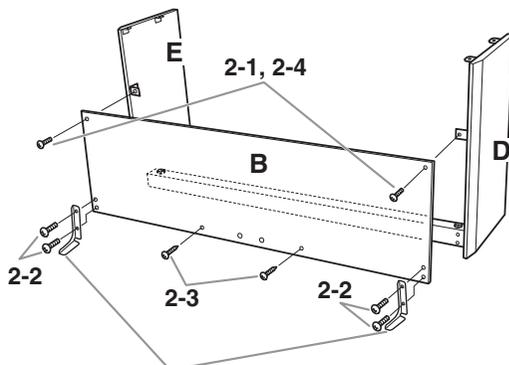


- 1-2 Cの両端にDとEを合わせて置く。
1-3 大きいネジ② (6×20mm) で仮留めする。



2 Bを固定する。

- 2-1 Bの上側を、細いネジ④ (4×12mm) で仮留めする。
2-2 DとEの下部を左右から押しながら、下側の左右を、大きいネジ① (6×25mm) 4本で固定する。
2-3 下側の残り2カ所を、先のとがったネジ⑤ (4×20mm) で固定する。
2-4 上側を仮留めしたネジ (手順2-1) をきつく締め直す。

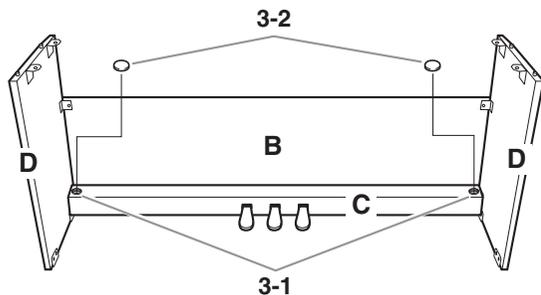


転倒防止用金具を一緒にネジで固定する。

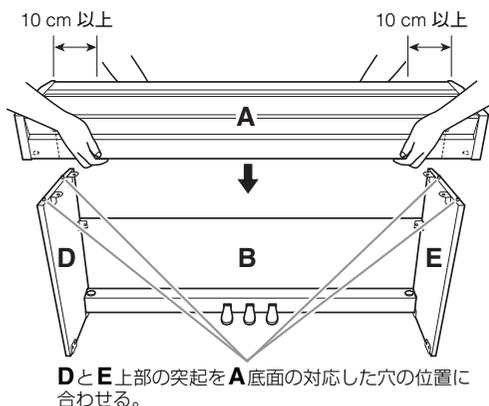
3 Cを固定する。

3-1 Cを仮留めしたネジ（手順 1-3）をきつく締め直す。

3-2 ネジの頭にキャップ ⑥をつける。

**4 Aをのせる。**

必ず A 底面の端から 10cm 以上内側を持ってのせる。



DとE上部の突起をA底面の対応した穴の位置に合わせる。

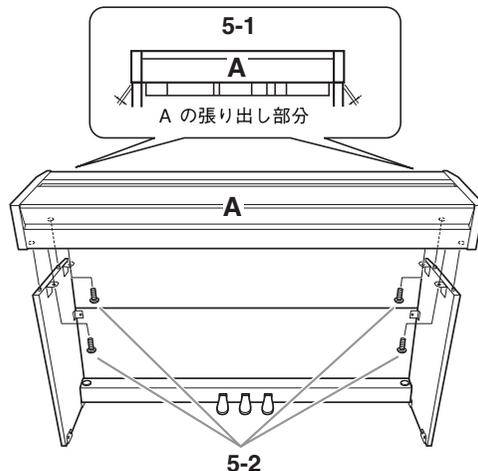
⚠ 注意

- 指をはさんだり、本体を落としたりしないよう、十分注意する。
- 指定した位置以外を持たない。

5 Aを固定する。

5-1 前から見て A の張り出し部分が左右均等になるように調節する。

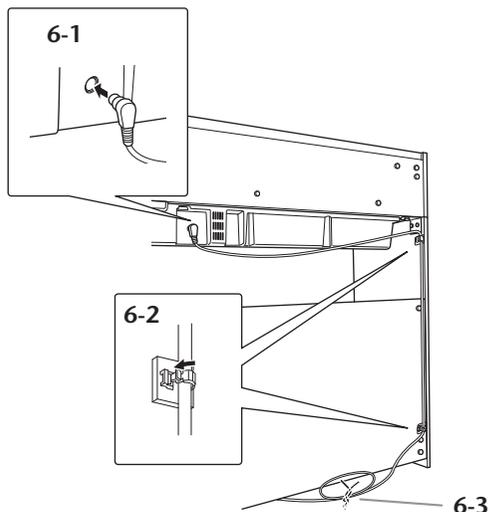
5-2 下面から小さいネジ（6×16mm）4本で固定する。

**6 ペダルコードを接続する。**

6-1 ペダルコードのひもをほどき、プラグを背面の [TO PEDAL] 端子に差し込む。

6-2 コードホルダーを図の位置に貼り付け、ペダルコードを固定する。

6-3 ペダルコードを、ビニールひもで束ねる。

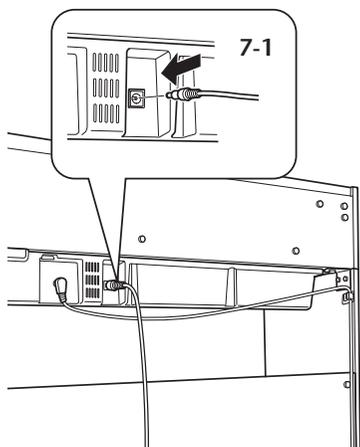


ペダルコードを接続するときはプラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。

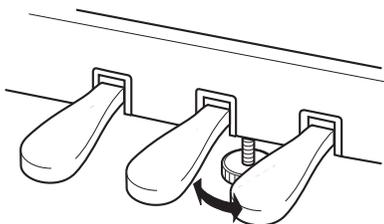


7 電源アダプターを接続する。

7-1 電源アダプターのプラグを背面の DC IN 端子に差し込む。



8 アジャスターを回して調節する。



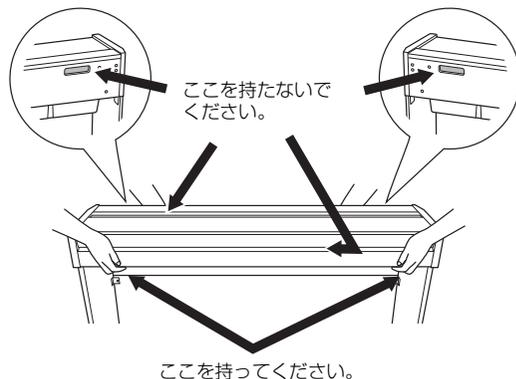
アジャスターを回して、床にぴったりつける。

■ 組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがこの楽器にあたりませんか？
→この楽器を移動してください。
- この楽器がぐらぐらしませんか？
→ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれる、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

⚠ 注意

- 組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。
- 本体上部の板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



仕様

サイズ/質量	幅		1353mm
	高さ ()内はキーカバーを開けた場合		783mm (970mm)
	奥行き ()内はキーカバーを開けた場合		309mm* (315mm) * 転倒防止用金具を取り付けた場合の奥行きは、404mm になります。
	質量		36kg
操作子	鍵盤	鍵盤数	88
		鍵盤種	グレードハンマー (GH) 鍵盤
		タッチ感度	ハード/ミディアム/ソフト/フィックス
	ペダル	ペダル数	3
		ハーフペダル	○
ペダル機能		ダンパー、ソステヌート、ソフト	
パネル	言語	英語	
本体	鍵盤蓋		回転式キーカバー
	譜面立て		○
音源/音色	音源	音源方式	RGE スタンダード音源
	発音数	最大同時発音数	128
	プリセット	音色数	10
効果	タイプ	リバーブ	○
		ダンパーレゾナンス	○
		インテリジェント アコースティック コントロール (IAC)	○
	鍵盤パート	デュアル	○
		デュオ	○
ソング録音 再生	プリセット	内蔵曲数	音色デモ曲 10 曲、ピアノ曲 50 曲
	録音	録音曲数	1
		録音トラック数	2
		データ容量	1 曲約 100KB (約 11,000 音符)
	フォーマット形式	再生フォーマット	スタンダード MIDI ファイル (SMF ファイル) Format0&1
録音フォーマット		スタンダード MIDI ファイル (SMF ファイル) Format0	
ファンクション	全体設定	メトロノーム	○
		テンポ	5 ~ 280
		トランスポーズ	- 6 ~ 0 ~ + 6
		チューニング	○
メモリー/ 接続端子	内蔵メモリー		約 900KB : ユーザーソング 1 曲 (最大約 100KB) + 外部ソング 最大 10 曲
	接続端子	ヘッドフォン	2
		USB TO HOST	○
音響	アンプ出力		20W×2
	スピーカー		楕円 (12cm×6cm) ×2
	アコースティックオプティマイザー		○
定格電源			AC100V、50/60Hz
消費電力			14W(電源アダプター PA-300C 使用時)
オートパワーオフ機能			約 30 分
付属品	保証書、取扱説明書 (本書)、ピアノで弾く名曲 50 選 (楽譜集)、 クイックオペレーションガイド、ユーザー登録のご案内		
	電源アダプター : PA-300C (またはヤマハ推奨の同等品)		
別売品	ヘッドフォン (HPE-150)、イス (BC-203)		

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

数字・ABC 順

DEMO/SONG	11,17,19,20,22
FUNCTION	8
Hz (Hertz).....	19
MASTER VOLUME	8,12,27
METRONOME.....	8,14,22
MIDI 入門.....	7
MIDI リファレンス	7
PEDAL.....	13,27,29
PHONES.....	8,11
PIANO/VOICE	8,11,12,15,16,18,19,20,21
PLAY.....	8,17,22,23,24
REC	8,24
USB TO HOST.....	8
Volume	14

あいうえお順

あ	
インテリジェント アコースティック コントロール (IAC).....	12
演奏を録音する	24
オートパワーオフ	11
お手入れ	15
オクターブ設定.....	20
音量の調整	14
か	
各部の名称と機能.....	8
片手練習する	23
キー (調) を変える	19
キーカバー	9
クイックオペレーションガイド.....	7
クイックプレイ	23
組み立て方	28
困ったときは.....	27
コンピューターとつなぐ	7
さ	
仕様	31
消去する	25
初期化 (イニシャライズ)	26
ソステヌートペダル	13
ソフトペダル.....	13

た

タッチ感度を設定する	15
ダンパーペダル	13
ダンパーレゾナンス	13
チューニング.....	19
調律	15
デモ曲リスト.....	17
デモ曲を聞く.....	17
デュアルモード.....	20
デュオ	21
電源ランプ	10
電源を入れる.....	10
電子マニュアル (PDF)	7
テンポの調整.....	14
トランスポーズ.....	19
取扱説明書.....	7

な

音色リスト.....	16
音色を楽しむ.....	16

は

ハーフペダル.....	13
ピアノ 50 曲 (プリセットソング)	22
左手の練習	23
拍子の設定.....	14
深さの調節.....	18
付属品	7
譜面立て	9
プリセットソング	22
ペダルを使う	13
ヘッドフォン.....	11
ボリューム.....	12

ま

右手の練習	23
メトロノームを使う	14

や

ユーザーソング	24
---------------	----

ら

リバーブ	18
リバーブタイプの設定	18
リバーブタイプリスト	18

メモ

付

録

機種名（品番）、製造番号（シリアルナンバー）、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(bottom_ja_02)

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。下記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパットなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル  **0570-012-808**
(全国共通番号)

※ 全国どこからでも市内通話料金でおかけいただけます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4830

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～18:00、
土曜日 9:00～17:00
(祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX 東日本
(北海道 / 東北 / 関東 / 甲信越 / 東海)
03-5762-2125
西日本
(沖縄 / 九州 / 中国 / 四国 / 近畿 / 北陸)
06-6465-0367

電子ピアノの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター

電子ピアノ・キーボードご相談窓口

ナビダイヤル  **0570-006-808**
(全国共通番号)

※ 全国どこからでも市内通話料金でおかけいただけます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-5272

営業時間: 月曜日～金曜日 10:00～18:00、
土曜日 10:00～17:00
(祝日およびセンター指定休日を除く)
<http://jp.yamaha.com/support/>

◆修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45
(祝日および弊社休業日を除く)
* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006
東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒554-0024
大阪市此花区島屋6丁目2-82
ユニバーサル・シティ和幸ビル9F
FAX 06-6465-0374

* 名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

◆ウェブサイトのご案内

● ヤマハ株式会社ホームページ

<http://jp.yamaha.com/>

● ヤマハピアノ・鍵盤楽器サイト

<http://jp.yamaha.com/piano/>

● ヤマハダウンロード

<http://download.yamaha.com/jp/>

● ヤマハ音楽データショップ

<http://www.music-eclub.com/musicdata/>

ヤマハ株式会社

デジタル楽器事業部
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

* 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。



U.R.G., Digital Musical Instruments Division
© 2012 Yamaha Corporation

302APGR*-*-**C0
Printed in Indonesia

ZA89660